

第一表

重要物資の国際比価 (31年1月末現在)

(注) カッコ内は前月比増減

品目	単位	区分	日本		米	英国	その他
			邦貨建	外貨建			
織 維	綿糸(20番手)	封度	M	¥ 186.9	¢ 51.9(-0.7)	¢ 69.0(0)	¢ 香港46.2(+0.1)
			E	192.6	53.5(0)		伊 57.7(-0.4)
	綿織物(2003)	碼	M	58.5~59.0	16.3~16.4 (+1.3~+1.4)	17.25(0)	香港15.7(+0.4)
			E	55.8	15.5(+0.5)		
人絹糸(ビス120D)	封度	M	228.0	63.3(-0.6)	83.0(0)	伊 82.4(0)	
		E	163.8	45.5(-1.5)			
スフ糸(30番手)	"	"	M	154.0	42.8(+1.4)	76.8(0)	
			E	139.5	38.75(+0.75)		
鉄 鋼	銑鉄(鋳物用2号)	屯	Q	25,000	\$ 69.4(+5.5)	\$ 58.2(0)	\$ 45.2(0)
			E	41,700	115.8(+8.3)	102.5(0)	90.5(0)
	棒鋼(19ミリ)	"	Q	46,000	127.7(+11.1)		
			E	45,720	127.0(+11.0)	120.1(+7.7)	113.7(0)
	厚板(12ミリ)	"	Q	46,700	129.7(+11.1)	99.6(0)	87.5(0)
			E	54,700	151.9(+8.3)	95.3(0)	96.3(0)
薄板(1.6ミリ)	"	Q	54,700	151.9(+8.3)	95.3(0)	96.3(0)	
		E					
非鉄金属	電気銅	封度	Q	158~165	¢43.9(0)~45.9(+2.0)	¢ 43.0(0)	¢ ベルギー45.4(0)
			M	218	60.5(+6.3)		49.9(-0.2)
	電気鉛	"	Q	64	17.9(+1.3)	15.8(0)	14.8(-0.3)
			M	50~63	14.0(0)~17.4(0)	13.5(0)	メキシコ14.8(+0.3)
	アルミ地金	"	Q	82~107	22.7(0)~29.6(0)	24.4(0)	21.4(0)
			M	399	110.9(+7.6)	102.5(-5.0)	97.4(-6.6)
錫	"	Q				シンガポール93.8(-5.2)	
		E					
化学製品	硫安	屯	E	21,762	\$ 60.45(-0.55)	\$ 51.0(+1.0)	\$ 50.0(0)
	苛性ソーダ(固型)	"	M	40,500	112.5(+1.4)	85.0(0)	76.0(0)
			Q	78,814~79,916	218.9~222.0(0)	CIF209.0(+3.5)	
動植物製品	大豆原油	ドラム	M	28,500	\$ 79.2(+1.4)	52.7(+5.4)	\$ 西独51.0(0)
	生ゴム(RSS3号)	封度	M	129	¢ 35.8(-4.8)	¢ 37.8(-6.6)	¢ 37.3(-6.2)
	原皮(牛)	"	M	80	22.2(+0.4)	14.0~14.5 (-1.0~-1.5)	¢ シンガポール34.0(-6.6)
燃料	石炭(粘結炭)	屯	M	6,750	\$ 18.8(0)	\$ FOB 11.8~12.0(+0.2) C&F27.0(+0.2)	

備考

1. 区分欄、Qは建値、Mは市中価格、Eは輸出価格

2. 繊維

- 海外価格はロイター電による。
- 香港綿布は2,003番相当のもの。
- 海外価格は150D価格を採用(我国での150Dの取引は僅少)
- 英国スフ糸は36番手単糸綿紡式によるもの。

3. 鉄鋼

- 日本のQ(生産者価格)は銑鉄では富士製鉄2月積建値、鋼材では八幡製鉄3.4月積建値より、全国平均運賃銑鉄1,000円、鋼材1,300円を夫々差引いて算出。
- 海外は銑鉄
ベルギー-鋳物用高磷銑ミュツソン(基準地)渡し
フランス " " ロングイ(")渡し
英国ベシック銑
- 英国は公示価格より我国同様運賃を差引いて算出。
- 米国はU.S.スチール社発表値。
- 西独は公示価格から4%を差引いた。
- 厚板は米国、英国9~38ミリ、プラン加盟国9.5~25ミリ。ベルギーはトーマス鋼。

(7) 薄板は米国1.7ミリ、英国3ミリ以下、西独、フランスには寸法エキストラ夫々7.93,731ドルを加算。

4. 非鉄金属

- 非鉄の英国価格はアルミを除きロンドン取引所現物相場。
- 電気銅国内建値の高値及びアルミの国内価格は精錬業者販売価格。
- 亜鉛、アルミ国内建値の安値は輸出原材料向特価
- 電気鉛、亜鉛のメキシコ価格、錫のシンガポール価格はいずれも市中相場。

5. 化学製品

- 苛性ソーダはアンモニア法製品価格。
- レーヨンパルプ国内価格は1~6'月期建値。海外価格は1~3'月期CIF日本価格。

6. 動植物製品

- 生ゴムの英国相場はRSS1号。
- 米国原皮鋸柄バックコースライト紐育現物相場、国内相場は取引単位が枚数のため概算。

7. 燃料

内外とも約8,000cal国内炭は本州特定製鋼所向30年度直炭灰価。

第二表

海外価格を100とするわが国価格指数の推移

(注) 備考其の他は第一表に同じ*は速報

品目	区分	基準国	28年9月	29年9月	30年3月	30年6月	30年9月	30年12月	31年1月
綿糸	M	米 国	105.3	90.5	84.8	84.7	83.9	76.2	75.3
綿織物	M	"	102.5	86.2	79.4	83.6	84.8	87.0	95.0-95.1
人絹	M	イ タ リ ー	91.9	66.7	57.3	64.1	65.5	77.5	76.8
スフ	M	英 国	74.2	57.5	56.8	55.9	59.7	65.7	67.9
棒	Q	ベ ル ギ ー	117.2	89.4	110.8	102.0	108.6	108.6	110.3
厚板	Q	西 独	107.1	91.2	103.6	101.3	108.3	108.3	118.4
電気銅	Q	米 国	135.0	126.9	110.7	104.7	102.0	102.1	102.1-106.7
硫酸	E	西 ド イ ツ	126.2	118.4	118.2	118.2	115.1	119.6	118.5
苛性ソーダ	M	英 国	179.1	136.9	126.5	134.1	134.1	146.2	148.0
レーヨンパルプ	Q	カ ナ ダ	123.4	116.8	116.8	115.4	115.4	115.4	111.0
大豆原油	M	米 国	121.0	182.9	190.4	175.0	185.3	164.4	150.3
生ゴム	M	シンガポール	115.1	115.0	114.0	113.7	110.9	100.0	105.3
原皮	M	米 国	172.3	149.4	174.9	162.8	138.9	136.3	158.6-153.1
卸売物価指数 (# 28年9月=100)		米 国	141.0 (100.0)	136.0 (96.5)	137.3 (97.4)	133.7 (94.8)	133.4 (94.6)	134.2 (95.2)	* 134.7 (95.5)

解 説

1月中の海外主要商品相場は、生ゴム、原皮、錫等軟化したものもあつたが、鉄鋼は引続き強調を示し、石炭、化肥等亦若干ながら値上りをみせたほか綿花、小麦、砂糖、大豆油等農産物も米国大統領の年頭教書が農業に対する積極的施策を明かにしたことを好感してそれぞれ騰貴し、総じて堅調な推移を辿つた。これに対し、わが国でも鉄鋼、非鉄等金属製品の急騰をはじめ繊維、化学製品等が上伸、一般的に市況は底固い動きを示し、東京卸売物価も月中0.6%の騰貴を示した。

このように内外市況は、いずれも堅調裡に推移したため、国際比価関係も大勢的には格別の変化はみられなかつた。しかし鉄鋼、非鉄金属については、わが国の値上りの幅が海外に比し遙かに大きく、従来の割高の幅が一段と拡大したのが注目を惹いた。

次に主要商品別に内外価格の動きを概観すると以下の通りである。

(1) 繊維 わが国は人絹糸が高値訂正から微落したが、綿糸布は輸出好調かたがた春夏物シーズン入りから騰貴し総じて堅調、一方海外も英国の綿糸、香港の綿糸布等が騰貴したが、値上りの幅はわが国に比較して小さく、繊維の対外的割安の

幅はやや縮小した。

(2) 鉄鋼 海外市況は引続き強調を辿っている。すなわちベルギーの棒鋼、厚板等はトン当り5~6弗騰貴し、輸出価格でも米国が棒鋼、線材等を7.7弗引上げ、シェーマン・プラン加盟国も輸出カルテル価格を半成品、棒鋼、厚板等につき3~7弗値上げを実施した。一方、わが国も市中相場が大幅上昇し、大手メーカーの建値も8.3弗~11.1弗の値上げを決定した。また輸出価格も国内価格ほどではないが5~11.0弗上伸し、いずれも海外のそれを上廻る騰勢を示した。この結果国際比価関係は一段と悪化。

(3) 非鉄金属 海外市況は錫が需要筋の買一巡かたがた世界錫協定の発効見込みから、米国、英国、シンガポールとも急落したのを首め、電気銅、鉛も騰勢一服し、全般に落着き模様となつた。一方、わが国は実需の増加もさることながら思惑人氣が濃化し、電気銅の急騰をはじめ総じて堅調に推移したため海外に対する割高の幅は一層拡大した。

(4) その他の商品 海外では頃来高値を維持していた生ゴムが、米国自動車生産の減少見込みから急落し、原皮も皮質低下期に入り反落したのに対し、わが国の生ゴムは値下りの幅が少く、原皮は逆に微騰した。